

# 令和5年度 第2回湖西市日本語教育推進会議

## 会議録

記録者 市民課 小林

▶ 日 時：令和5年6月30日(金) 14時00分～16時15分

▶ 場 所：湖西市民活動センター 2F 大会議室

▶ 出席者：

- (委員) 常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科教授 坂本勝信  
静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授 福永達士  
静岡県多文化共生課西部エリア担当地域日本語教育コーディネーター 岸川順子  
湖西国際交流協会事務局長 猪井英典  
日本語教師 豊田吉博  
学校教育課主任主査 内山さよこ
- (湖西市) 市民安全部市民課長 豊田雄一  
市民安全部市民課協働共生係長 小林景子  
市民安全部市民課協働共生係主任 吉田有貴

▶ 資 料：

【別紙】湖西市における日本語教育の課題抽出の進行について

▶ 会議概要：

1. 開会

2. 議事

【湖西市における日本語教育の課題抽出】

- ・ 市民課から会議の進行説明の後、アイスブレイク、課題抽出及び課題整理を行った。
- ・ 委員から出された課題及び課題のカテゴリ並びに重要度の高い課題は「別紙」のとおりとなった。
- ・ 主な議論は次のとおりであった。

<課題のカテゴリ分けの過程における主な議論>

◎「人材（確保・研修）」について

- ・ 人材をどう確保するか、どう教育するか。
- ・ 教育よりは養成又は研修。
- ・ 日本語教育に関わっている方に、さらにスキルアップしてもらう意味で研修とする。

- ・ カテゴリーは「人材（確保・研修）」に決定。

◎「コースデザイン」について

- ・ 誰を対象とするか、どのような目的で開催するのか、時間数、シラバスなど。
- ・ 湖西市でもう一つ教室をつくる計画はしているのか。
- ・ 計画をしている。
- ・ 資金面はどうか。
- ・ 教室を増やすとなれば予算を取りにくい。増やす選択肢は当然ある。増やすことが良い選択肢かということも含めて会議に諮らせていただきたい。
- ・ アンケート結果で回答者の 27%はより高いレベルの日本語を身につけたいとあった。中級クラスの充実ということも一つ。
- ・ 増やす選択肢もあり、既存の教室を拡充することで充実する方法もある。
- ・ 現在の教室は居場所の意味ももっている。
- ・ 点在している外国人住民にはオンライン教室も可能性がある。
- ・ 色々なニーズがある人に対して一つの教室でいっしょくたに受け入れている。
- ・ ニーズにあったクラスが別に必要ではないか。
- ・ 議論を経て、既存の教室をブラッシュアップすることでうまくいくのであればそれでいいし、議論の結果もう一つ教室が必要であればそちら。
- ・ 既存の教室を変えるのか、今あるからこそ新しい教室でちがったことを出すのか、どちらを目指すのか。
- ・ 市が会議で諮っていることの原点はどうか。
- ・ 既存の教室の良さは壊さないようにしたい。既存の教室でカバーできていなくて必要なものがあれば、そこを目的に開催する教室を新しく作った方がいいのかと考える。ただし、既存の教室の改善の方がうまくいくという結論であれば、そちらを選択する。
- ・ 教材、レベル分けクラス、教育内容、生活 Can Do など内容に関わる課題なので、カテゴリー分けは「コースデザイン」にする。

◎「子どもへの初期支援」について

- ・ 現状、初期支援では、学校生活への適応や学習の初歩を学校へ在籍する前に教えている。仕組みが充分でない。過去には、湖西国際交流協会の自主事業で実施。数年前から委託事業のプレスクールとして実施。本来であれば、外国人児童・生徒が在籍した中での初期支援が充実できるといい。磐田市では、在籍後に3か月間センター方式で初期支援を実施、浜松市は、数十時間のプログラムを受けてサバイバルジャパニーズを身につけてから在籍ということを行っている。湖西市は、学校に編入したら週2時間の取り出し授業だけ、それも今年度はあまりできていないという状況なので、充実が必要。
- ・ 初期支援は委託事業ではなく、教育委員会が責任をもって行う事業ではないか。委託事業は市が実施できないから民間に委託するのであって、子どもへの初期支援は市ができ

ないと言っではいけない内容。

- ・湖西市の場合、教育委員会はノータッチということか。他の自治体は教育委員会が主体となり、その中で実施はNPO 法人なりに委託。
- ・掛川・菊川・小笠（御前崎市）は虹の架け橋教室を共同で実施、袋井市にも仕組みがある。
- ・「送迎ができない家庭が多め」という課題は、今の仕組みの中での課題。親が働きに行くので、プレスクール教室へ送って来られない。

- ・これから市へ出す内容は、理想論でいいのか。
- ・行政に付度なしで出していただければと思う。
- ・日本語カフェは年間 40 回×2 時間=80 時間。「地域における日本語教育の在り方について（報告）」では、自立した言語使用者を目指すための学習時間目安は 320 時間～550 時間、1～2 年かけて学習することが示されている。浜松市の外国人学習支援センターでは、平日 3 時間の授業を 1 年間通して受講できる。そこまで湖西市ができるのか。それとも限られた資源と予算の中で最適解を目指すのか。
- ・浜松市の方法は物理的にできない。仮にニーズがあって開催したとしても、働いている人は来られない。
- ・浜松市の教室は昼間開催していて働いていない学習者が多い。
- ・今日の会議では、できるできないは別として課題の議論でいいか。
- ・できるできないは置いての議論をお願いしたい。次回の会議で、理想の教室を目指すべきか改善していき近づけるかというような、解決策の議論をお願いしたい。
- ・現状は、一つの教室で全てをまかなうようにしているため、目指すものが見えにくくなっている。
- ・市の多文化共生推進プランの中では、日常生活を送るために必要な日本語学習を支援するとしているのだから、このプランを拠り所にするのなら、さらに高い目標を目指すというのはちがうと思う。全員のニーズは吸い取れないので、この教室はこの目標だということを提示してもいい。

#### ◎「市の施策・方向性」について

- ・市側がどうするのか。
- ・委託でいいのか。
- ・国の事業を利用しないのか。

#### <重要度の高い課題を決定した過程における主な議論>

#### ◎人材（確保・研修）

- ・地域日本語教育コーディネーターがいないこと。

- ・ 国の方針でも地域日本語教育コーディネーターの配置が示されている。
- ・ 地域日本語教育は有資格者でなくても良いので対応できる人を増やす、その方に日本語教育の知識を持ってもらうということが当面の課題。
- ・ ボランティア研修、養成講座が必要。
- ・ 教室開催時間に対応できる人材の確保が課題。
- ・ 日本語支援者（講師・ボランティア）に対する研修が必要。
- ・ 若い方を日本語支援者に取り込めたらいい。

#### ◎子どもの初期支援、コースデザイン（子ども）

- ・ 全体の中で、子どもの初期支援が一番重要。学校に在籍した後の児童・生徒に対する支援の充実。
- ・ まず、仕組みづくりが重要。これに尽きる。
- ・ 高校生年齢の子どもの入国が非常に増えている。中学校を卒業していないことがわかって、磐田市に開校した県立夜間中学を紹介した。
- ・ おそらく保護者は地域日本語教室に入れば日本語ができるようになるだろうと思っていて、16 才になったら派遣会社や工場でお金を稼がせるという風に考えているのかもしれない。子どもたちが自分の将来のことを選べない状況。少数ではあるけれど、そういった子が増えてきている。
- ・ 働くにしてもアルバイトや派遣社員になってしまう。そこをどうしたらいいのか。
- ・ 成人は生活者・就労者として社会の関わり、子どもは学校の関わりが核になってくる。
- ・ ちきゅうっこひろばは意味がある。教室に来て勉強をしない子どももいるが、居場所として子どもが開放的になれる。支援者は、勉強をしっかりと教えればいいのか、居場所として過ごせるようにすればいいのか、迷う。
- ・ 初期支援とも共通するが、湖西市の教育委員会が主となって、地域日本語教室にお願いするところと（学校が実施するところ）を分担すると、連携もうまくいくと感じる。
- ・ ちきゅうっこひろばは日本語支援は勿論のこと、学校教育に関する情報がないことへの支援も一緒になっている。

#### ◎市の施策・方向性

- ・ 湖西市の地域日本語教室の在り方が明確になっていないこと。
- ・ 自主事業でボランティアが日本語教室をやっていた頃の課題が、市が予算化した事業になってもそのまま続いている。
- ・ 湖西市の地域日本語教室の在り方を今一度振り返る必要。

- ・在り方を振り返るときに、地域日本語教育コーディネーターがいたらまとめられるのではないか。

#### ◎コースデザイン（成人）

- ・生活 Can Do を意識して作っていくといい。教科書にも関わってくる。
- ・現状は教材に合わせて教室を運営しているが、本来のコースデザインは、目標があり、その目標を実践するためにどのような評価をするかを考えて、その評価からわかる課題を達成するために教材を選ぶという順番。
- ・日本語教育参照枠では生活 Can Do を推しているなので、それを検討した上で、どのような教材、どのような教育内容とするかにつながる。
- ・「湖西市民のための生活 Can Do」。〇〇ができるようになるためには、どのような教材、どのような教え方とするか、のようにつなげていくといい。
- ・湖西市内で湖西国際交流以外に地域日本語教室を開催している民間機関を聞いたことがない。民間機関があれば、そちらへ行ってみたらという話もできる。
- ・外国人市民に聞くと、習熟度に関わらず、オンラインで日本語を勉強しているということをよく聞く。
- ・湖西市の調査結果を見ても、自宅の近くにある教室、土曜日・日曜日に授業がある教室を重視する割合が高い。(教室へのアクセスしやすさを重視するのが) 現実。働いている人が多い。
- ・現在の教室規模以上の人が、大勢来ると受入れが難しい。ハード面の弱さ。
- ・教室にキャパシティがあって、日本語支援をする人材もいれば、教室へつなげることがすごく大切。
- ・湖西市は転入時に日本語教室のアナウンスはしているのか。
- ・転入者に配布する転入セットの中に、日本語教室を紹介する動画のチラシは入っている。
- ・湖西国際交流協会を市が日本語教育を担う中核機関として認めているのか。選定がプロポーザル方式だと、他の団体が来て競争になる。より良い方を選定することになる。湖西国際交流協会が100%受託できるとは限らない。
- ・他の団体が出てくることで、より良い日本語教育の場ができてくとも考えられる。
- ・市が地域日本語教室において、日本語を学ばせたいのか、地域との相互交流をしたいのか。というのがあまり見えない。ビジョンをはっきり示さないといけないのでは。
- ・大人の日本語教室の仕様書の中に、地域との交流機会を年2回以上設けるということは、入っている。多文化共生の場であってほしいという思いは感じて運営している。

- ・ 転入してきた外国人市民に、相互理解のためにこういうことをやっている、日本語理解のためにこういうことをやっているといったことを、外国人市民や外国人市民が働く職場に示すのは大切。
- ・ 文化庁では、学習者は「言語を学ぶ者」だけでなく、日本語教室に来ることによって「社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」と示している。地域の日本語教室は、そこがまず目標だと思う。これを湖西市のビジョンの中にも入れることが必要。

#### ◎相互理解

- ・ 多文化共生のイベントはたくさんあって、多文化共生の近くにいる人は何回も来てくださってやさしいが、外の人になかなか伝わらないというのを感じている。これを日本語教室にどう涵養していくか。
- ・ 「日本語カフェ」の対話交流型活動の在り方。湖西国際交流協会が月 1 回実施している対話交流型活動では、正に毎回来ている方が中心。地域住民の方がもっと来た方がいい。学生も。それによって相互理解が進む。
- ・ 静岡県の方針では対話交流型をすごく推している。対話交流活動の在り方について改善することで、相互理解も進むし、地域連携にもつながっていくのではないか。
- ・ この時、こういうテーマでやるという発信をして、支援者に来ていただくという方法が改善策の一つかもしれない。

### 3. その他

#### 【第 3 回の予定】

- ・ 会議日程 令和 5 年 7 月 28 日（金）14:00～16:15 湖西市役所 3 階委員会室
- ・ 会議内容 見直し項目の整理について説明

#### 【第 4 回の予定】

- ・ 会議としての提言をまとめる。日程調整の連絡を後日行う。可能であれば、市長及び教育長へ提言を渡せるよう調整を行う。

以上

※ 他自治体の日本語教室の状況については発言のまま掲載しますが、詳細が異なるときは訂正する可能性があります。